

# 年頭のあいな

新年明けましておめでとうござい  
ます。

市民の皆さまにおかれましては、  
平成二六年の清々しい新春を健やか  
にお迎えのことと心よりお慶び申し  
上げます。

昨年は、政治、経済、社会、さま  
ざまな変化のあった年ではないで  
しょうか。本市においても、地域活  
性化や市民生活の安全・安心の確保  
のため、さまざまな取組を進めまし  
た。特に六年振りに赤浜地区工業団  
地への企業誘致、明秀学園高萩キャ  
ンパス「明高館」の完成、日本ボー  
イスカウト連盟が中戸川で本格的な  
活動を開始したことは、雇用の場の  
確保、地域の活性化を図る上で大変  
意義があるものと考えております。

また、昨年は風土記勅撰の詔から  
千三百年を迎え、県内で多彩な記念  
行事が催されました。高萩市が五  
月に開催した「常陸国風土記勅撰  
1300年記念事業」は、県内の風  
土記関連事業の先駆けとして大きな  
注目を集めたところです。十月に開  
催した初代松岡城主戸沢政盛公を顕  
彰する「第一回戸沢サミットin高萩」  
では、市内外から大勢の方においで  
いただき、高萩の歴史を考えていた  
だく大きな機会になったのではない  
でしょうか。

今年市制施行六十周年を迎えま  
す。昭和二九年十一月二三日に高萩  
町、松岡町、高岡村の二町一村など

## 市制施行 60 周年

### 歴史ある高萩の魅力を活用し、郷土愛と誇りを高めましょう

が合併して高萩市が誕生しました。  
本市がここまで発展してまいりまし  
たのも先人の皆さまのご尽力と市民  
の皆さまのたゆまぬ努力の賜物であ  
り、心より敬意を表しますとともに  
深く感謝申し上げます。

六十年。人生であれば、還暦を迎  
え成熟した時ではございますが、現  
在の市政は多くの課題を抱えており  
ます。人口減少、少子高齢化、厳し  
い経済事情、東日本震災からの復  
興など、数々の山積する課題の対応  
にあたらなければなりません。

とりわけ、災害に強いまちづくり  
と少子化対策が最重要でございます  
す。東日本震災で被災した公共施  
設の復旧はほぼ完了しましたが、次  
のステップとして市民の皆さまが安  
心して生活ができるよう、災害に強  
い高萩づくりに取り組んでまいりま  
す。昨年までに防災無線の整備、エ  
リアメール、コミュニティエフエム  
「たかはぎFM」の開局などの情報  
伝達手段の整備を進めてきました。  
引き続き学校の耐震化、津波一時避  
難施設の整備などに努めてまいりま  
す。

加えて、復興のシンボル、市民の  
ランドマークとして再建が心待ちに  
されている市役所庁舎につきまして  
は、昨年策定した「本庁舎再建計画  
【基本構想・基本計画】」に基づき、  
設計業務に着手し、平成二九年度か  
らの使用開始を目指します。



高萩市長  
草間 吉夫

また、明るい未来を築くには子ど  
も達の存在が欠かせません。高萩の  
将来を担う「萩っ子（ハギッズ）」  
が健やかに成長できるよう子育て支  
援に注力してまいります。きめ細や  
かに教育環境を向上させるととも  
に、三世代交流事業や次世代育成支  
援対策事業などを引き続き実施し、  
地域全体で子ども達を見守り、安心  
して子どもを産み育てる環境づくりに  
努めてまいります。

六十年の節目の今年を新しいス  
タートの年として、高萩市の豊かな  
自然環境や先人から引き継いだ歴史  
あるまちの魅力を活用して郷土愛と  
誇りを高めてまいります。そして、  
市民の皆さまが夢や希望を持ち続け  
ることが出来る未来を共に築いてま  
いりましょう。

今年一年が皆さまにとって、すば  
らしい年となりますよう祈念して、  
年頭のあいなとさせていただきます  
す。

12  
8 親子でおせち料理に挑戦

男女共同参画社会の理解と親子の絆を深める料理教室「お父さんとつくる元気モリモリ簡単ごはん」(ハーモニーたかはぎ・高萩市主催)が中央公民館で開かれ、8組19人の親子が料理の楽しさを味わいました。

この日は、簡単おせち料理づくりに挑戦。伊達巻のほか、ちくわやかまぼこを門松やウサギに見立てるなど、子どもが楽しめるアイデアレシピに挑戦しました。お父さんたちは、子どもの手を取り調理を開始。オリジナリティ溢れる盛り付けを披露しました。子どもたちは、皿に盛り付けた料理を見て満足そうな表情を浮かべていました。凧紗ちゃん、直樹くんの2人と参加した岡田拓也さんは「息子に誘われて参加をしました。家でもまた一緒に作りたい」と笑顔で話してくれました。(今月の表紙)



12  
8 たかはぎ駅伝競走大会  
124チームがたすきをつなぐ

第62回たかはぎ駅伝競走大会(高萩市・高萩市教育委員会主催、同体育協会ほか後援)が、市役所跡地を発着点として、市内を周回するコースで行われました。レースは、一般・高校生の部が6区間28.5キロ、中学男子・女子・オープンの部が5区間14.29キロの5部門に分かれて争われ、過去最多の計124チームが出場しました。選手たちは沿道の市民からの声援を受けながら懸命にたすきをつなぎました。

結果は15ページをご覧ください。



げんき! 高萩大使

テレビ北海道アナウンサー 春日町出身  
大藤 晋司さん

からのメッセージ

北海道より、高萩市の皆様に、謹んで新年のお慶びを申し上げます。毎年、年頭は未来への期待を意識するものですが、今年は特に、そして徐々に、強い期待感を抱いております。

昨年、2020年の東京でのオリンピック・パラリンピック開催が決まりました。多くの方が決定の瞬間に歓喜されたことと思います。スポーツ中継に携わるアナウンサーとして私も感動しましたが、招致活動の現場取材してきた方の話を後に知り、更に感慨を深くしました。

その方によると「東京の招致活動は、他の立候補都市よりも、深い配慮と自制が働いていた」そうです。ライバルを押しつけるのではなく、自分たちの理念や理想を、論理的に、わかりやすく、情熱を持って訴えたことが、投票権を持つ委員の心をとらえました。緻密で、周到な戦略はもちろんありましたが、それを遂行する上での姿勢こそが、招致成功の大きな要因だったのです。

配慮や自制といったものは、日本人が伝統的に美德としてきた価値観ですが、ここしばらく私たちが覆ってきた閉塞感の中で揺らいでいたように思います。ところが今回、世界中が注目する招致合戦で、それが評価されました。結果のみならず、結果を得るための過程で、私たちが拠りどころとしてきた姿勢が認められたことは、大きな自信と、進むべき方向を示してくれたように思えます。

このことは高萩の未来にもあてはまるのではないかと思います。自分たちが求めることを、情熱、配慮、自制を持って世に示す。それが多くの人に認められれば、自信と誇り、そして活気が湧いてくる—もちろん、乗り越えるべき課題もあるでしょうが、克服を後押しするのも、他ならぬ地域の方々のエネルギーでしょう。故郷・高萩がより多くの人に知られ、期待感が北海道まで伝わってくる、そんな2014年になりますことを、皆様のご健勝とご多幸と合わせ、心より祈念いたします。

げんき! 高萩大使とは

高萩市にゆかりがあり様々な分野で活躍している方に、市の魅力を広くPRしていただいています。現在、大藤さんのほか、ベトナム料理研究家の鈴木珠美さん、ギタリストのEiriさんが大使として活動しています。